

会 議 録

第9回定例会

開会 平成25年8月27日

教育委員会会議録

1 開 会 平成25年8月27日 午後1時00分

2 閉 会 平成25年8月27日 午後2時00分

3 出席委員

委員長	佐藤 紘子
委員	西 泰宏
委員	田村 典子
委員	坂口 裕昭
委員(教育長)	佐野 義行

4 出席者

副 教 育 長	小原 直樹
教 育 次 長	富樫 敏彦
教 育 次 長	藤井 伊佐子
学 校 政 策 課 長	前田 幸宣
特 別 支 援 教 育 課 長	栞原 孝司
教 育 総 務 課 長	川村 章二
教 育 総 務 課 副 課 長	阿部 淳子

[開 会]

委員長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

委員長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

《報告事項1 平成25年度とくしま教育の日（教育週間）実施事業について》

委員長 説明を求める。

教育総務課長 内容を説明する。

〈質 疑〉

西委員：我々に関わるのは、さわやかトークングだけか。

教育総務課長：今のところはそうである。

教育長：県教育委員会としてはそうだが、1日を起点に各小中高でオープンスクールをしているので、時間があれば行っていただければと思う。

委員長：去年は、「教育の日」の地域のオープンスクールで、各委員が子どもの様子を見せていただいた。

田村委員：オープンスクールは地域の人も参加して良いんですね。それは、どうやって周知しているのか。

教育総務課長：学校ごとのHPにもあるし、教育委員会のHPにも取りまとめたものを掲載している。

田村委員：地域と連携するチャンスである。交流があれば良い。

委員長：オープンスクールは、始まってから10年ぐらいになる。だんだんと親御さんでない地域の方々が参加してくれている。学校もみなさんに見ていただける中身を考え、工夫している。午前中は、授業、午後は集会といったように。その中でご支援や意見をいただくことが大事になる。「教育の日」は意識を高めるチャンス、啓発・広報していただきたい。今年の新しい試みは何か。

教育総務課長：新しいものは、とくしま経済飛躍サミット、めざせ体力アップ！チャレンジ大会である。高校生産業教育展はこれまでもあったが、キャリア教育をテーマにし、意見交換をする、また、わくわくトークも知事に現場に行ってもらい、同じテーマで意見交換を実施し、テーマ設定を明確にしたり、切り口を変えるなどの工夫をした。

委員長：また、ロゴマークもできたので、広く知ってもらい、趣旨が浸透すればいい。
私たちも現場を知ることは大事だと思う。

《報告事項2 平成25年3月県内高等学校卒業生の進路状況について》

委員長 説明を求める。

学校政策課長 内容を説明する。

〈質 疑〉

教育長：進学、就職とも近年、自宅から近いところをしたいという生徒が増えてきているようだ。

委員長：経済状況だけでなく、家庭の志向がそうなっているのかも知れない。

教育長：少子化傾向もあり、本人だけでなく保護者の意向も大きいと思われる。

教員としても、県外に進学・就職して頑張ってもらいたい場合もあるけれど、県内大学・県内企業もあるし、本人・家庭の意志も尊重したい。

委員長：専門高校からの大学進学は、どのようになっているのか。

学校政策課長：網羅的なデータはないが、徳島科学技術高校のデータを紹介する。

平成21・22年では、国公立大学への進学が各6名であったのが、平成24年が24名、平成25年は21名 となっている。専門高校からより専門性を高めるための進学も増えている。

委員長：資料3についてLINE等で情報提供する意図は何か。

学校政策課長：これまでも各学校においてHPなどで情報提供してきたが、こちらで集約したデータをLINE配信等することによって、今まで以上に高校生が、徳島県の先輩が進学した大学について知り、自分の志望大学について調べたり、自分の進路について考えるきっかけにしてほしいとの思いがある。なお、便宜的に国公立では3名以上が進学した大学を掲載しているが、一橋大学や東京医科歯科大学にも各1名進学している。

田村委員：冒頭に、生まれたところからあまり離れたくないと考える子供が増えているとの話があったが、ある意味でショックを受けた。経済的な背景もあるだろうが、冒険心が無いように感じる。若者には、どんどん外に出ていって力をつけて帰ってきてもらいたい。フロンティアスピリットを持って外に出た学生が、徳島に帰ってくるような施策を考えてもらいたい。

教育長：若者が外から徳島を見たり、外から自分の家庭を見ることは大切なことだ。商工労働部などと連携して考えていく必要がある。徳島では中小企業の中に

もキラリと光る技術力を持った企業等もある。教員採用試験でも、県外で経験を積んだ現職者がUターンするケースもある。また、人材育成については多面的に考える必要がある。日本を背負いグローバルに活躍するような人材育成、徳島で活躍する人材育成、いずれにしろ、前途ある子どもが、開拓も共生もでき、特に徳島で育った高校生が世界に羽ばたく、そのときに徳島のことを考えられるような教育、将来に明るい展望を持たせる教育が大切だ。

田村委員：つないでいくとの発想も大切ですね。

学校政策課長：地元に戻る帰らないよりも、自分が実現したいことが県内にあるか、日本にあるかという視点で考えることも必要だと思われる。

委員長：育ててくれたふるさと・親・家族や自分の進みたい道についてよく考え、将来について判断できるようになってほしい。

教育長：その際に選択肢を増やしておくことが大事だ。県立中学では海外体験支援等もしている。様々な体験が有用だ。また、ふるさとの良さを教えておくことも大切だ。願わくば、どこにいても軸足をふるさとにおいて活躍してもらいたい。

西委員：海外留学に関するデータは報告資料に入っているか。

学校政策課長：海外留学については入っていない。

委員長：全国的に留学希望が減っているという指摘もあるが、チャレンジしていく姿勢も大切だ。

坂口委員：私自身は、徳島にしかないものを求めて、徳島に来た。商工労働部等と連携して、徳島のブランド化や起業時の事業資金の支援等を推進する必要があるのでは。また、教育においては、郷土を愛することを教えることも大事だし、夢や希望を抱かせ、その実現に向けて踏み出させることが大切だ。

委員長：本日の協議は、広い視野での大切な話であったと思う。

[閉 会]

委員長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後2時00分